

# Ocean Trade II

Practical edition of FX trading



**FXトレーダー大学**

<https://fxtrader-university.com/>

# はじめに

---

この度は、Ocean II トレードノートをご購入いただき有難うございます。  
せっかくご購入いただいたご縁もありますので、私が伝えられる限りのことをお伝えしていきたいと思えます。

このドキュメントに書かれている手法は、私が10年分の検証を行い、  
損失の最小化と利益の最大化を実現させることができた信頼性の高い手法です。  
過去に販売しているOceanとの違いは、移動平均線を使用したより実践的なトレードノートに仕上げている点です。  
実際のマーケットの動き方に焦点を当てながら、物理学・行動経済学・心理学を応用して相場で生き残っていく方法を、細かくお伝え  
していきます。このOceanトレードを極めることで、マーケットで利益を上げていくことが期待できます。  
実際に僕はこの手法を使って何度もトレードをして、利益を上げています。

何度もここに書いてあることを読み返して、必ず自分のものにしてください。  
他の手法を探す時間があれば、このシンプルな手法を繰り返しおこなっていく方が最短で勝てるようになります。

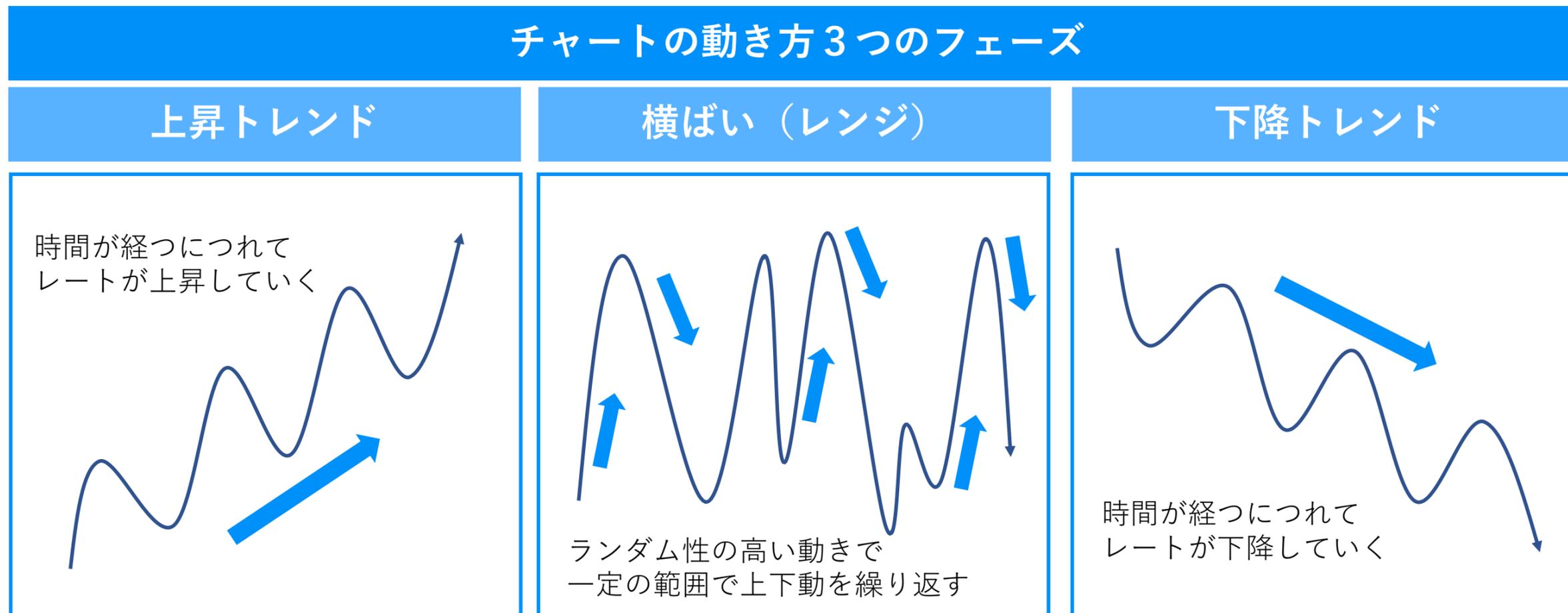
FXは勝てるようにならないければ意味がありません。  
この機会に、是非とも勝てるようになって資金を増やしてまいりましょう。  
手法について理解していただいた後でも、ご自分の悪い癖を直すための練習を繰り返し、  
まずは数十万の単位で勝てるようになることを目指してください。  
大切なのは繰り返し練習をすることです。

どうぞよろしくお願ひいたします。

# チャートのフェーズ分類

チャートの動き方には3つのフェーズがあります。  
これは基本的なことですが、「上昇トレンド・横ばい（レンジ）・下降トレンド」の3つのフェーズです。  
このフェーズをしっかりと意識していないがためにトレードの利益の取り方を見誤ってしまうことがあります。  
まずはこの基本のキをしっかりと押さえましょう！！

人間は心理学的に、当たり前前のことを軽視してしまう本能があり、この過小評価自体がのちのちのトレード成績に大きな影響を与えることとなります。  
まずはチャートがどのフェーズにあるのかをチャートを見て判断するクセをつけましょう。



まずは3つのフェーズがあることを強く意識して、  
現在どのフェーズなのかを  
考えることが大切！



# 上昇トレンドフェーズ

まず最初に上昇トレンドフェーズの捉え方について説明します。

上昇トレンドフェーズは、見てわかるように上昇傾向にある相場の状態を示しています。

よくある失敗例として、上昇トレンドに対して逆張りのショートエントリーをかけることですが、これは全くもって理にかなっていません。上がっているときは上がる傾向に乗っかるのが大原則です。

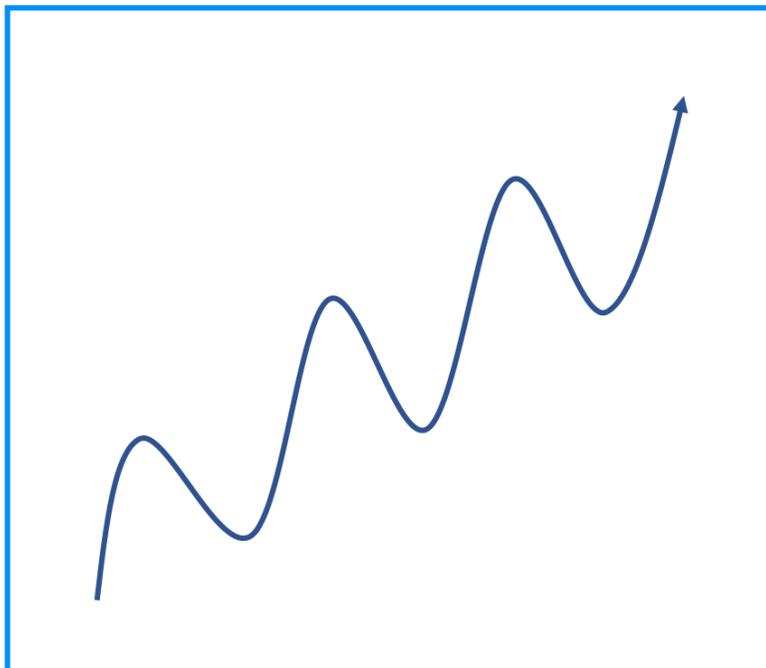
エントリーについては後でより詳しく説明しますが、上昇トレンドがそろそろ終わるだろう、と考えるのは人間の勝手な思い込みによるものなのです。

これは、行動経済学でも証明されていることなのですが、人間はトレンドの継続性を過小に評価してしまう傾向があります。

トレンドが継続することに対しては消極的な判断を行い、さらにトレンドが終わってしまうことに対して積極的な判断を行ってしまう傾向があるのです。

この性質を自覚しておき、トレンドが終わるのではないかと思った時には思い直すようにしましょう。

## 上昇トレンド



上昇トレンドが発生しているときは、その状態が継続するという認識で相場を見るようにしましょう。

上昇トレンドでは、上昇トレンドが続くという想定で立ち回りを決めていくのが良いでしょう。本能的にはそろそろ上昇トレンドが終わるかも、、、という恐怖心と戦うことになりますが、できるだけこの恐怖心を自覚しながら戦略を詰めていくということになります。

この戦略の部分に対しては、後ほど説明していきます。まずは基本のキから。

# レンジフェーズ

次にレンジフェーズです。レンジ相場という名の通り、相場は方向感を失っていて、トレンドが発生していない状態です。損切りをできるようになった中級トレーダーの利益を奪っていくのも、このレンジフェーズになります。

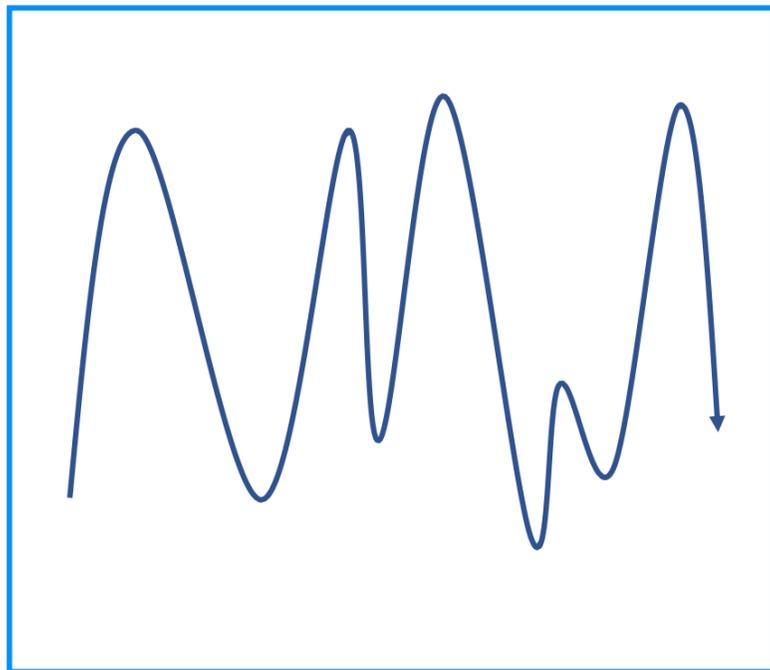
上昇すると思ってロングでエントリーして利益が少し乗ったと思ったら、すぐに下がってきて一気に含み損になって損切りをくらい、逆にショートでエントリーしたと思ったら上昇になり損切りになります。

往復ビンタともよく言われますが、レンジフェーズであることを認識しておかないとやられてしまいます。

たとえ、上昇トレンドフェーズで利益を取れたとしても、このレンジフェーズで手に入れた利益を大きく減らしてしまい、ヤケになってそのまま損失を膨らませてしまうこともよくあります。

レンジフェーズは利益を奪っていくということを慎重に考えるようにしましょう。

## 横ばい（レンジ）



レンジになったことを確認し、レンジの上限または下限でエントリーをかけたと思ったら、すぐにそのレンジをブレイクして次のトレンドにうつってしまう、なんてこともよくあります。レンジ相場であるということを認識できた頃には、もうマーケットは次の方向に向かって動く準備が整った後であることが往々にしてあるのです。

また、レンジになっているときはランダム性の高い動き方をしてしまい、ブレイクのダマシもあれば、本当にブレイクすることだってあります。

FXで勝ち続けようと思ったら、トレーダーはこのレンジ相場をいかに攻略するかが要求されます。

まずはこのレンジフェーズの存在を認知しておきましょう。どのように攻略していくのか、後ほど説明していきます。

# 下降トレンドフェーズ

最後に下降トレンドフェーズです。これは上昇トレンドフェーズと同じ考え方で、その方向が上向きなのか、下向きなのか、という違いだけです。

一般的に上昇よりも下落の方が急激に動くと言われていています。

よくやってしまうのが上昇トレンドフェーズからレンジ相場フェーズになった時に、その後下降トレンドフェーズに入るだろうというバイアス（思い込み）を持ってしまってレンジフェーズの時にショートポジションを持ってしまうパターンです。

後ほどエントリー方法の時にも説明しますが、上昇トレンドからレンジフェーズに入ったからといって、その後下降トレンドフェーズに入るとは限りません。このバイアスは、どのトレーダーにも備わっている考え方なので注意が必要です。

下降トレンドの下落は急激な動きになる、ということを知っているため、「急激に動く前にポジションを持っておこう」という考え方になってしまっているのです。

## 下降トレンド



このような考え方は、過去にポジションを持たなかったがために利益を取り逃がしてしまった、という機会損失の経験があるがために生じるものです。

ですが、あらかじめ下降トレンドに入るということを予想してショートポジションを持つておくことは、とても苦しいトレードを強いられてしまうことにもなるので、あまりオススメしません。

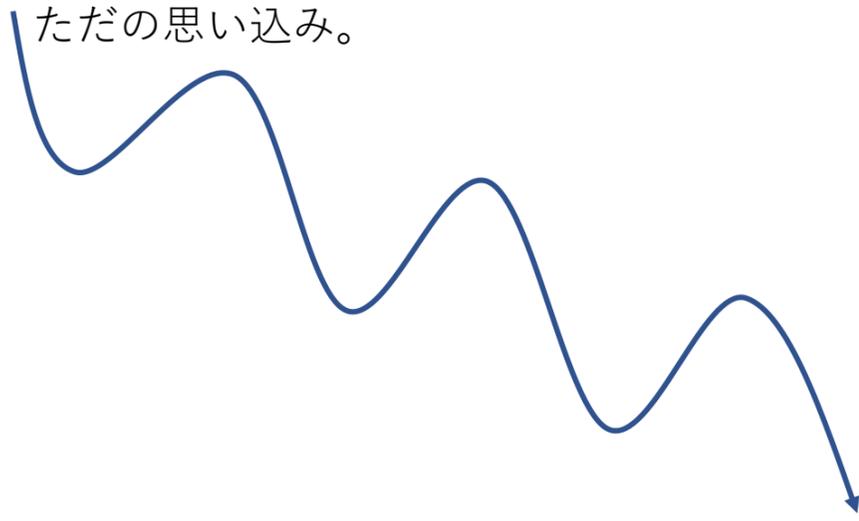
少しフライング気味に話してしまいましたが、下降トレンドフェーズではそのトレンドの継続性を過小評価することなく、「下がっているものは下がり続ける」という考え方をするようにしましょう。

# フェーズチェンジとは

さて、相場には3つのフェーズがあるということを改めて認識したところで、次はフェーズチェンジについて考えていきます。実際のチャートを見ながら考えるには、このフェーズチェンジについて知っておく必要があります。それぞれのフェーズは、ずっとそのフェーズが続いていくこともあれば、他のフェーズに移ることもあります。たとえば、上昇トレンドフェーズからレンジフェーズになることをフェーズチェンジと言います。その逆も然りです。まず、トレンドがずっと続くことはありません、すぐにフェーズチェンジをするはずだ、という考えは捨てるようにしましょう。ビットコインが盛り上がっていた時には、ずっと上昇トレンドフェーズが継続していき、何倍にも資産が膨れ上がったこともありました。このように、それぞれのフェーズがずっと続いていく、という可能性もある。ということも認知しておかなければならないのです。上がりすぎ、下がりすぎ、なんていう考え方は相場においてはありません。人間が勝手に作り出した幻想なのです。フェーズが続いてくれればくれるほど、トレードは簡単になります。しかし難しいのは「フェーズチェンジの扱いをどのように考えてトレードしていくのか」ということです。まずはフェーズチェンジにはどのようなパターンがあるのか、知っておくようにしましょう。

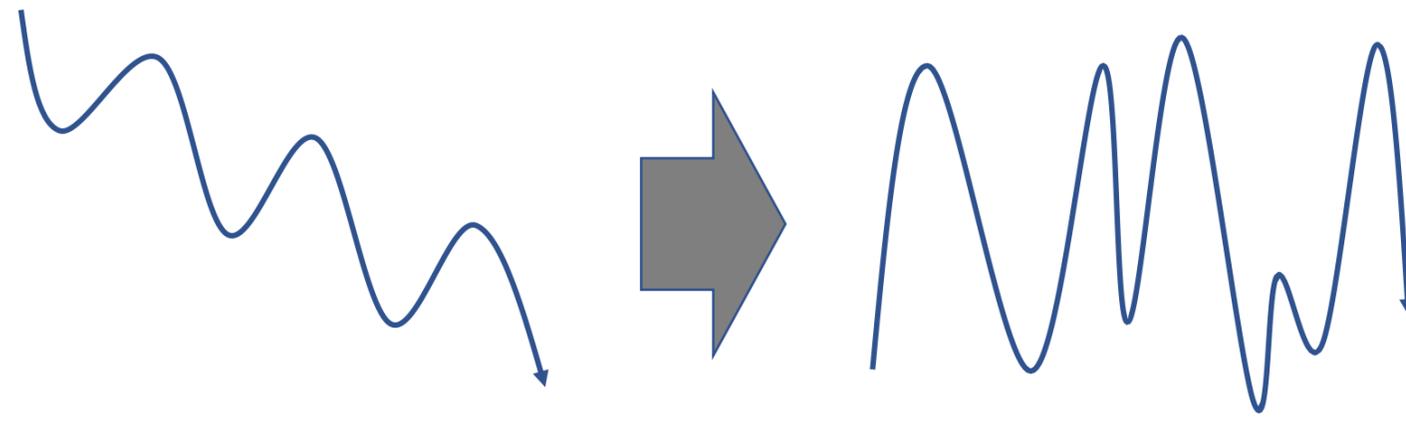
## フェーズ継続

下降トレンドフェーズがずっと継続することもある。下がりすぎ！なんて考えはただの思い込み。



## フェーズチェンジ

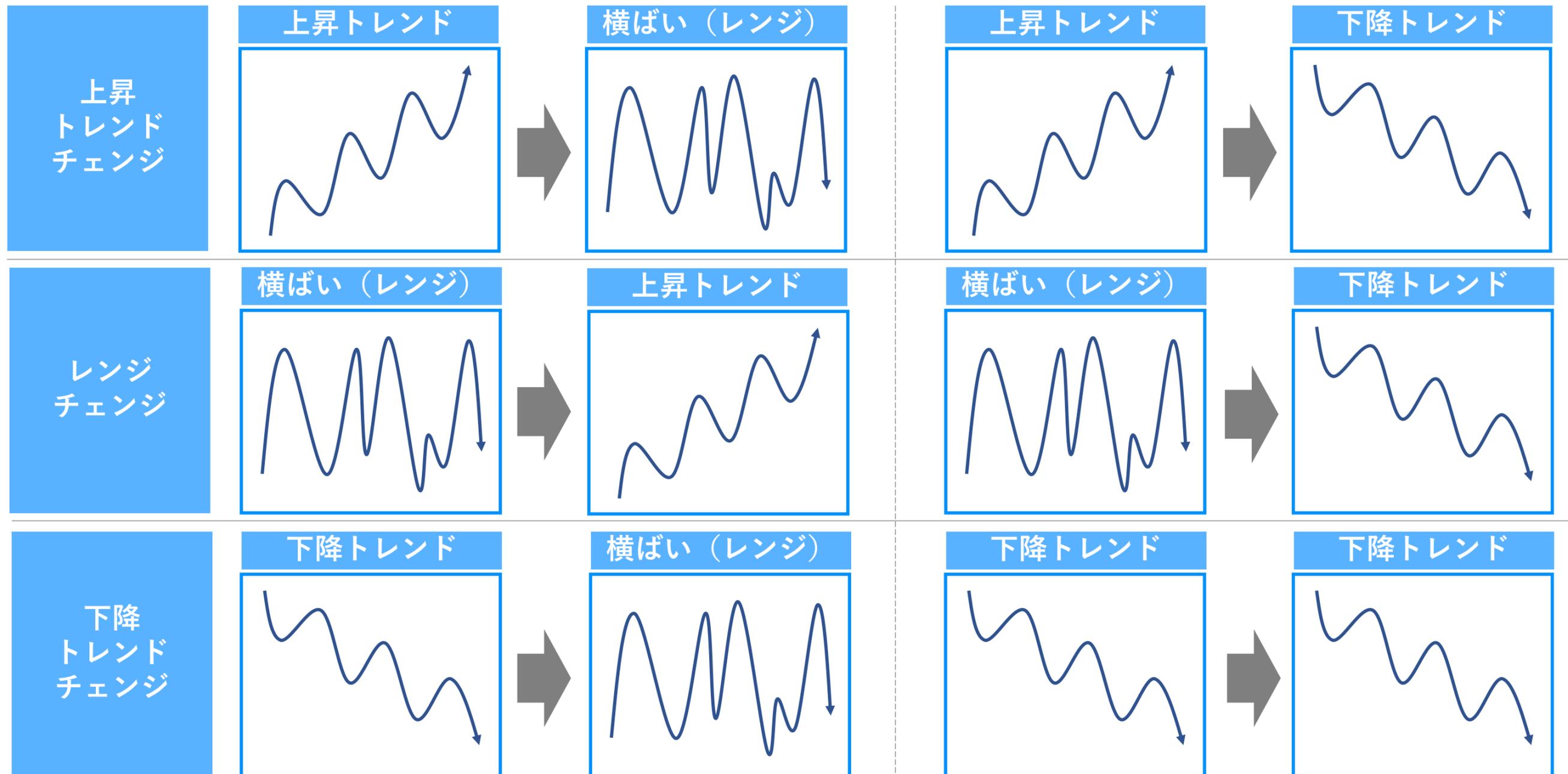
下降トレンドフェーズからレンジフェーズや上昇トレンドフェーズに移り変わることをフェーズチェンジという。トレードはこのフェーズチェンジに対応できないと利益を出せない。



# フェーズチェンジのパターン

フェーズチェンジには以下の6パターンがあります。

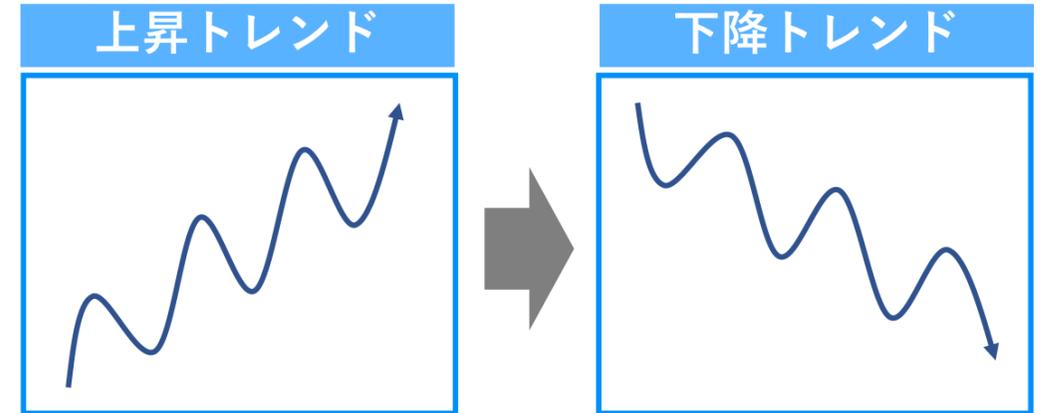
それぞれのパターンがあることをまずは認識しておき、これからのトレーディング方法解説の基礎となる部分なのでしっかりと覚えましょう。とはいえ、ある1つのフェーズが残り2つのフェーズに移り変わるだけなので考え方はとてもシンプルです。



# フェーズチェンジのチャート例

ここで、フェーズチェンジの具体的な例を見てみましょう。

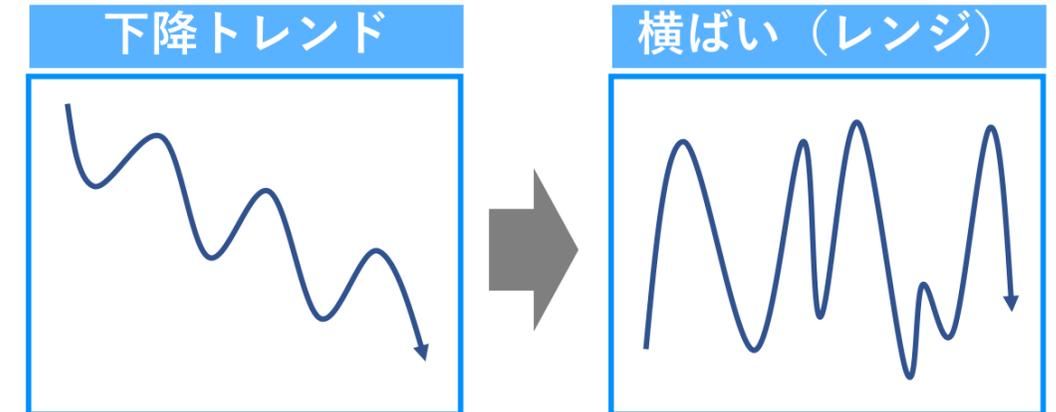
以下のチャートは、豪ドル円の1時間足チャートですが、上昇トレンドから下降トレンドへのフェーズチェンジを表しています。



# フェーズチェンジのチャート例 2

もう1つ実際のチャート例を見てみましょう。

以下のチャートは、同じく豪ドル円の1時間足チャートですが、下降トレンドフェーズを構成して、その次にレンジフェーズになっているチャート例です。



# フェーズを見極める方法

これまでにフェーズの種類とフェーズチェンジについてお伝えしましたが、実際にトレードする時には、現在の相場がどのフェーズになっているのかを見極める必要があります。

現在のフェーズを見極めるために、単純移動平均線（SMA）を使います。SMAは、トレード入門書ではゴールデンクロスや、移動平均線タッチでエントリー判断を行うために使われがちですが、移動平均の本質を考えると、エントリーの根拠として使うには全く持って根拠のないトレード方法になります。

移動平均線は、過去のある一定の期間の平均です。つまり、過去一定期間の間に相場がどのような傾向があるのかを見るのに適したインジケータなのです。

僕のトレードでは、25期間の単純移動平均線を使います。この25SMAが上向きになっているときは上昇トレンドフェーズ、下向きになっているときは下降トレンドフェーズ、横向きになっていたり小刻みに上下にウネウネしているときはレンジフェーズだと捉えることができます。



実際にチャート上に25SMAを表示させてみたのがこちらのチャートになります。

一貫して25SMAが下向きに動いていますね。

このように、移動平均を使うことで一定期間中の傾向を見ることができるようです。

このように下降トレンドが続いているときは、この下降トレンドが続くという想定のもとトレードを展開していくこととなります。

下がっているものは下がり続ける。

上がっているものは上がり続ける。

下がりすぎという考えは人間のただの思い込みである。

心に留めておきましょう。

# フェーズごとのSMAの状態

下降トレンドの他にも、レンジ、上昇トレンドのそれぞれの25SMAの状態についてもみておきましょう。  
上昇トレンドの場合は25SMAが一貫して上向きになっており、下降トレンドの場合は下向きになっています。  
そしてレンジフェーズの場合は細かい上下動を繰り返していたり、水平になっていたり、という状況になっていますね。  
移動平均線というのは、過去の相場の状況を視覚的にわかりやすくした補助ツールなのです。

## 25SMAを使ったフェーズ状況の見極め

### 上昇トレンド



### レンジ



### 下降トレンド



ここまでは基礎的な部分のお話をしてきました。これだけではマーケットから利益を得られるようにはなりません。  
理由は単純で、マーケットは先に説明したようにフェーズチェンジを繰り返していきます。  
フェーズチェンジが生じた時、これだけの考え方だと大きな損切りにあってしまう可能性があるのです。  
そして、移動平均線ではトレードで勝てるようにならないといって手法探しの旅に出ることになります。  
これは、入門書に書いてある方法では不十分であることも示唆しているのですが、皆さんにはこれから具体的な戦略をお伝えしていきます。

# SMAタッチでのエントリーはただの思い込み

一般的な書籍に書いてあるのは、SMAにタッチしてからエントリーをかけたり、SMAをクロスしたらエントリーをかけるという方法です。しかしこれは、皆さんも経験がある通り、全くもって機能しません。それどころか、このこじつけルールに惑わされてよくわからないエントリーを繰り返してしまうのが関の山です。よく考えてみてください。移動平均線で必ず反発をする、というのは人間が勝手に考えた神話でしかないのです。

風が吹けば桶屋が儲かる、なんていうことわざがありますが、まさにそれと同じ全く根拠のないことです。

実際に先ほどの下降トレンドフェーズにあるチャートを見てみましょう。SMAを何度も上に抜けていますが、その後も下落を続けていますよね。SMAを上を抜けたからといってロングのエントリーをかけたり、ショートポジションをいちいち手仕舞って話にならないのです。SMAにタッチをした時にショートのエントリーをかけて、そのまま上に抜けて損切り決済、なんてことを繰り返していると、利益になるものもありません。こうやって、多くのトレーダーはマーケットに資金を奪われていくことになるのです。



こんな話をすると、次に考えてしまうのはSMAのパラメータがおかしいのではないかとことです。

「25期間ではなくて75期間ならうまく機能するんじゃないか」だなんて考えてぴったりハマる期間を探してしまいがちなのですが、例え過去の相場でそんな期間を見つけたとしても、次の相場の動きでその期間設定に沿って相場が動いてくれるかという、必ずしもそうではありません。

もしそんなパラメータ設定があるのでしたら、すでに勝ちトレーダーばかりになっています。そして「現在機能するパラメータ設定」サイトなんかもどんどんできてくるはず。そうなっていないということは、パラメータ設定にこれといった正解がないということの証拠でもあります。

このトレードでは25SMAを使ってフェーズの状態を見極めるようにする、という捉え方をしましょう。

# 損切りが全てを決める

ここまで相場の見方を養ったところで、トレードで勝ち続けていくためにはどうしたら良いのかについてお伝えします。そもそも、なぜトレードで勝てないのでしょうか。それは損切りに全ての秘密が隠されているのです。トレードはごくシンプルに考えると、利益確定した金額から損切りした金額を差し引いて、プラスになっていれば口座のお金を増やすことができますし、その逆なら口座からお金が減っていくこととなりますよね。利益の大きさはトレーダーはコントロールすることはできません。相場がどのように動くかなんて、誰にもわかりませんからね。トレーダーがコントロールすることができるのは、損切りの金額だけなのです。ということは損切りを極小にしていくことがトレーダーにできることの全てなのです。損切りの金額を極小にすることで、利益確定トレードを何回か生み出すことによって、トレードでトータルプラスを生み出していくことができます。ですが多くのトレーダーは損切り幅を大きく取りすぎてしまう傾向があります。損切りできないトレーダーもいますし、損切りをするにしても大分余裕を持たせて行うトレーダーだっています。そもそも損切りが大きすぎるのです。



例えば左のチャートを見てみましょう。長い間レンジフェーズにあった状態で、レンジを上に抜けてきたためロングでエントリーをかけたとします。しかしそのまま相場は反転下落をしてしまいました。結果的にレンジブレイクのダマシとなっているパターンですが、この場合、レンジ抜けを待っていたトレーダーからしたら、なかなか下落の事実を受け入れられず、決済はできません。どうせまた上昇するだろうという考えに陥ります。そしてそのまま、レンジフェーズの下限を下にブレイクした時になって初めて損切りを行います。そうすると、レンジフェーズのレンジ幅プラス $\alpha$ が損切りの幅になってしまいますよね。このような損切り極小の考え方に反するようなトレードをしていてはいつまでたっても勝てないのです。

# 損切り極小化の技術

損切りを極小にしたい。そのためにはどうすればいいのでしょうか。

それは、今見ているチャートの時間足よりも細かい時間足でチャートを見てあげて、微調整を行うことで解決します。

ここで初めてマルチタイムフレームの考え方が出てくるのですが、本来マルチタイムフレーム分析とはこのような使い方をするべきなのです。今見ているチャートを拡大または縮小して相場を見るために使うのがマルチタイムフレーム分析です。

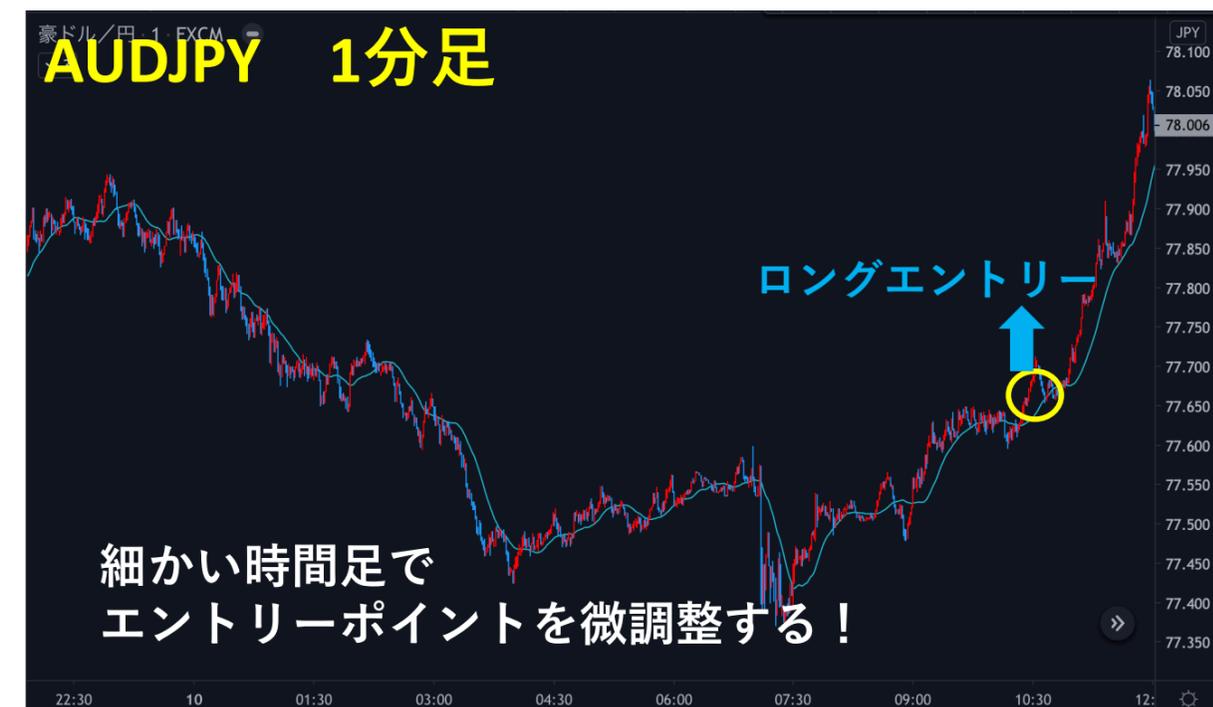
そして損切りを極小にするために、時間足を細かくしてチャートを拡大してあげることで、エントリーの微調整を行うことができます。細かい時間足を使って微調整することによって、損切りもその細かい時間足で決めることができます。一方で、利益確定は本来見ていた、大きな時間足で行うことになるので、損切りを極小にしつつも利益を莫大にすることができるようになるのです。

ここまでの考え方を理解いただければこのトレード方法の核となる部分の考え方はもう大丈夫です。

これから、より具体的なトレード方法についてお伝えしていきます。



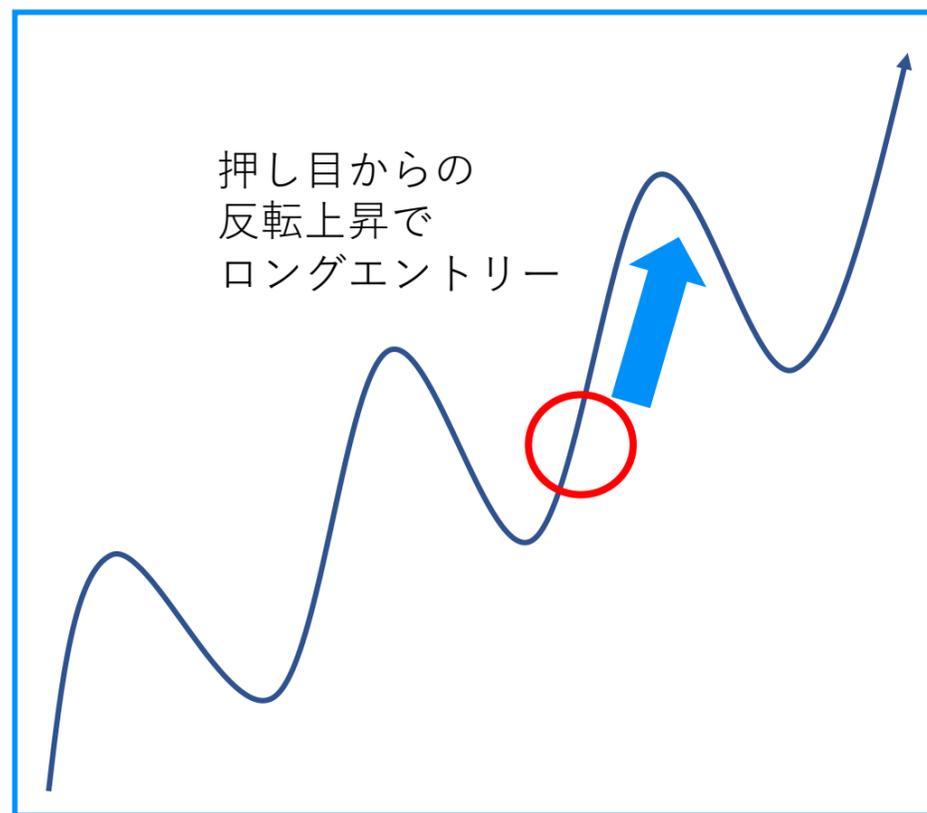
拡大!



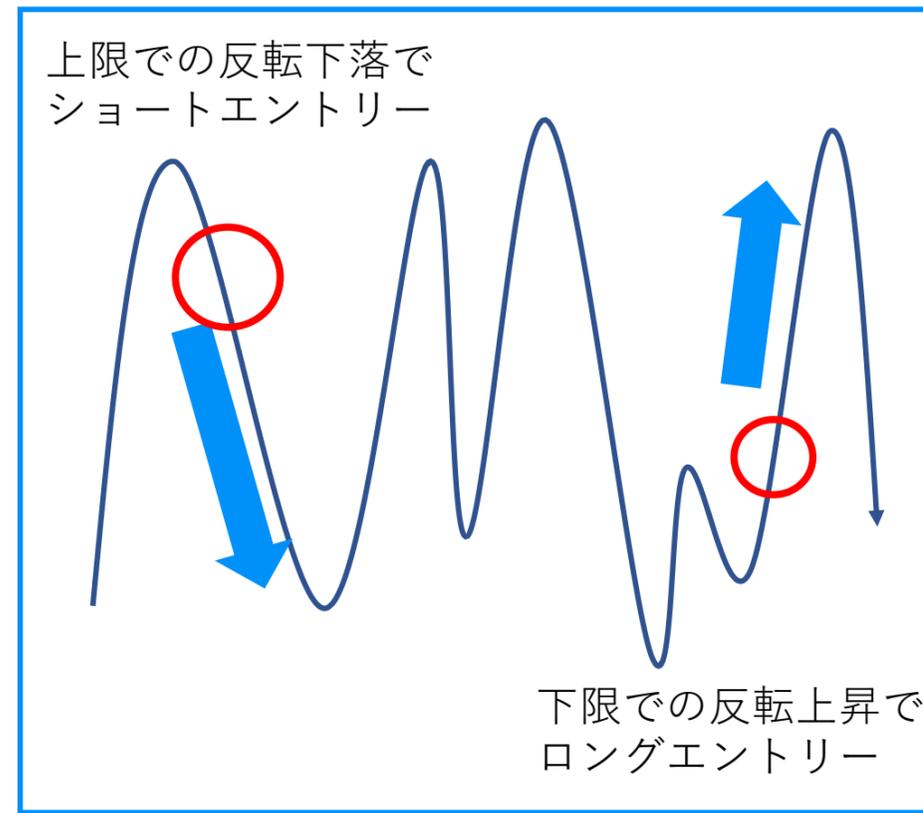
# トレードで狙うポイント

トレード手法で狙っていくポイントはそれぞれのフェーズによって変わってきます。  
上昇トレンドでは押し目を作った後に再度上昇を形成していくポイントを狙います。  
レンジフェーズでは、レンジ上限での反転下落を形成していくポイントと、レンジ下限での反転上昇を形成していくポイントを狙います。  
下降トレンドフェーズでは、戻りを作った後に再度下落を形成していくポイントを狙います。  
しかし上昇トレンドでの押し目を取るのもなかなか難しい技術なのはみなさんご存知の通りです。  
それを簡単に実現していく方法もあるので、これから解説していきます。

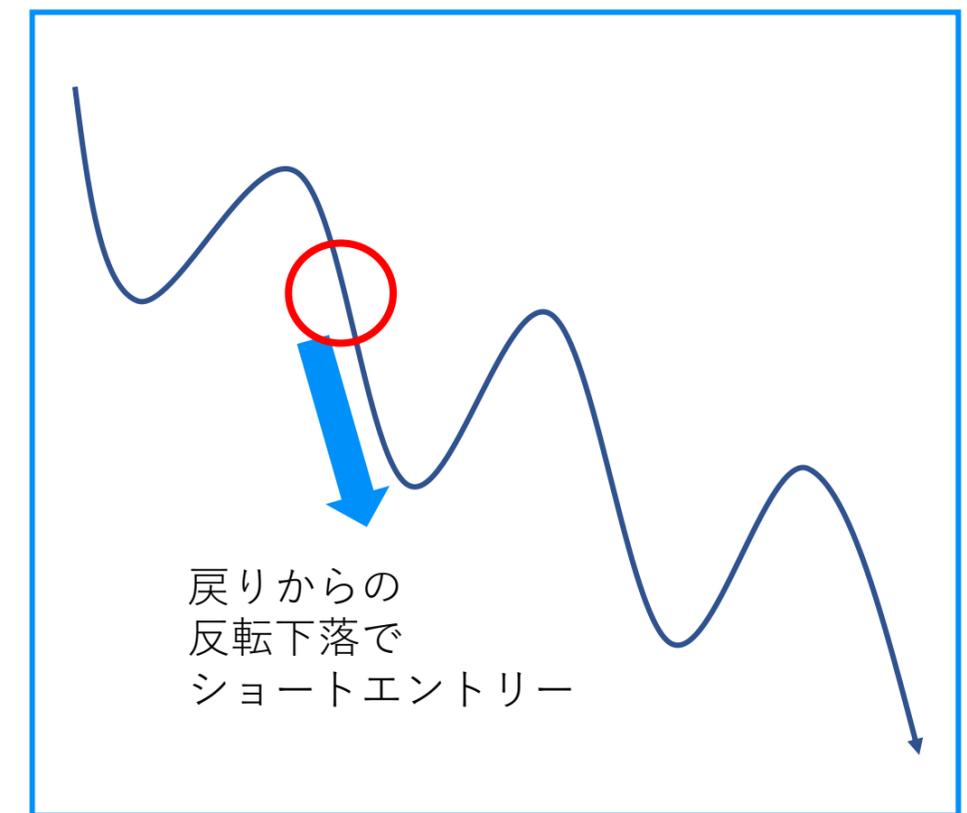
## 上昇トレンド



## レンジ



## 下降トレンド



# 環境設定（チャート設定・時間足・通貨ペア）

まずはチャート設定と、トレードする時間足について説明します。  
チャート設定は、25期間の単純移動平均線のみ表示させます。  
時間足は1時間足・5分足・1分足の3つを使います。  
通貨ペアは豪ドル円を使います。

## チャート設定



## 時間足

### 1時間足



### 5分足



### 1分足



## 通貨ペア



# 環境設定の解説

インジケータに25SMAを表示するのは、これまで説明してきた通り、相場が今どのフェーズにいるのを見極めるためです。

時間足には、1時間足・5分足・1分足を使います。

これから解説していきますが、まず1時間足を使って相場のフェーズを特定します。その後、5分足と1分足を使って微調整を行いながらエントリーをかけていきます。

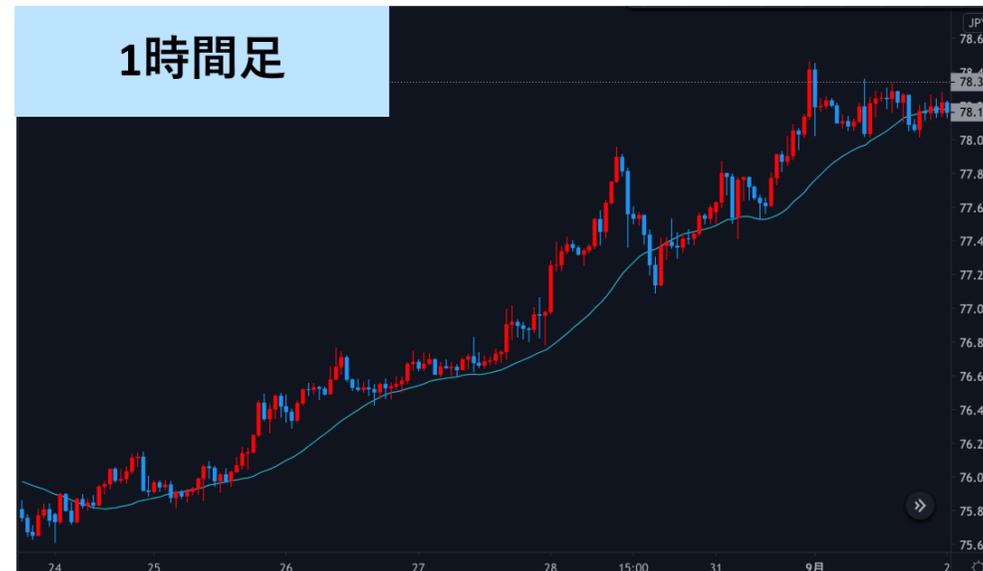
そして最後にトレードする通貨ペアですが、おすすめは豪ドル円です。順張りのトレードでは、トレンドが長く続いてくれればくれるほど利益を最大にすることができます。

この観点で見た時に、先進国の通貨ではマーケット参加者が成熟していることもあり、なかなか持続性のあるトレンドが発生しにくいのです。その点豪ドル円はボラティリティもあり、1度向いた方向へのトレンドが継続しやすいという特徴があり、順張りトレードがやりやすい通貨ペアになります。

## 通貨ペア選定



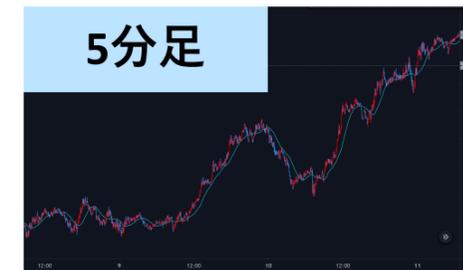
## フェーズ分析



## トレード

フェーズの方向に合わせて  
微調整をかけながらエントリーをかける

### 5分足

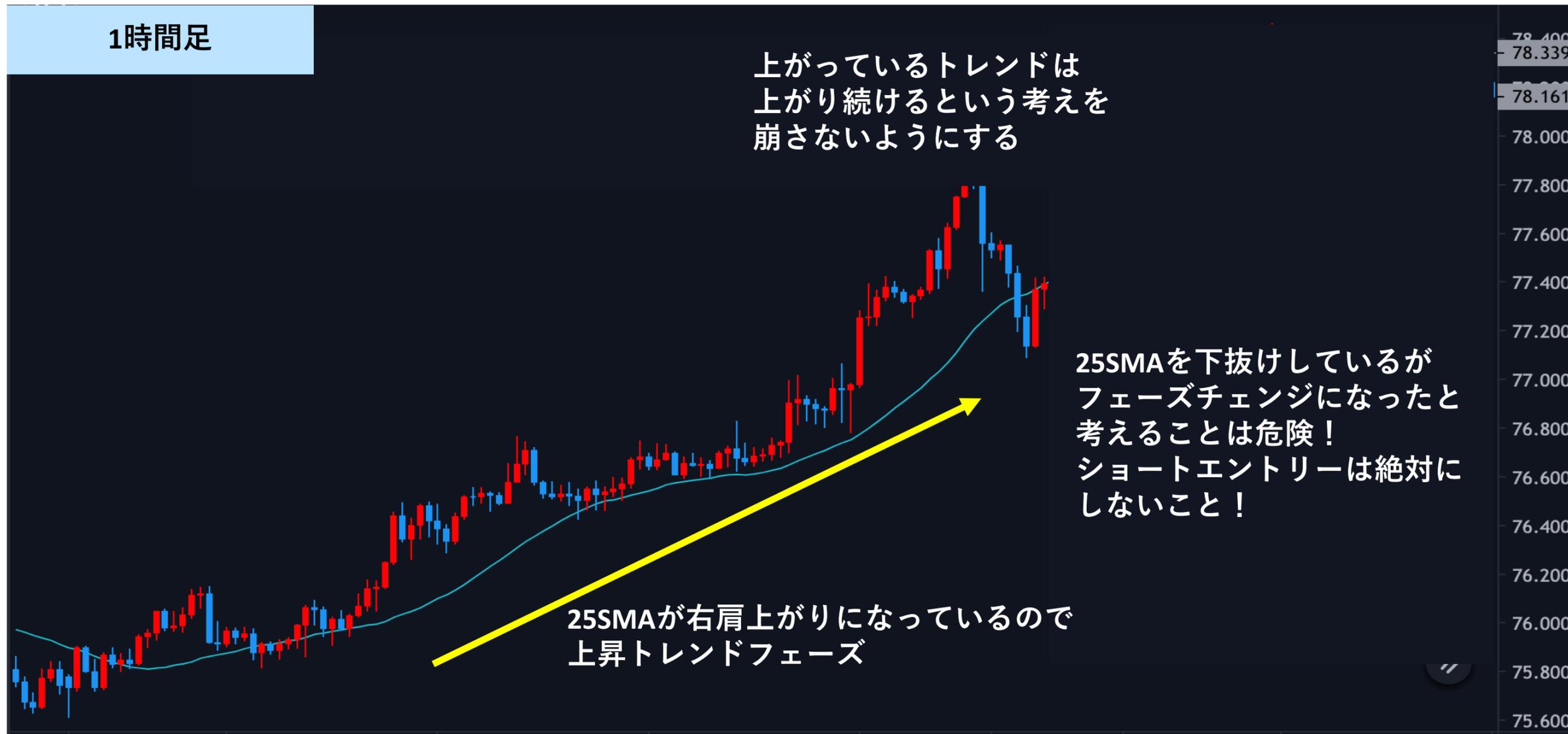


### 1分足



# 上昇トレンド フェーズ分析

では早速トレードの核心に迫っていきます。まずはフェーズ分析を1時間足で行なっていきます。  
上昇トレンドフェーズでは、25SMAが右肩上がりの状態になっています。ここで注意したいのは決して下降トレンドやレンジに転換することを考えないということです。人間は上がりすぎだろう、という勝手な思い込みをしてしまう心理があります。上昇フェーズにある場合は、上昇トレンドフェーズの立ち振る舞いをしていくのです。さらに25SMAで反発をするという思い込みも捨てておきましょう。  
25SMAはトレンドの方向を見るためのインジケータなのです。



# 上昇トレンドトレードポイント決め

1時間足でフェーズを決定したら、次は5分足のチャートを見てまた同じようにフェーズの分析を行います。  
1時間足では上昇トレンドフェーズであっても、5分足では一旦下降トレンドフェーズにフェーズチェンジしています。  
狙いたいのは、5分足で上昇トレンドフェーズにフェーズチェンジしたポイントです。  
この時になって初めてエントリーを考え始めます。



# 上昇トレンドトレードポイント決めの注意点

5分足でフェーズチェンジを見極める際に注意したいのが、焦らないということです。

上昇トレンドフェーズに移り変わったと思ったら実はレンジフェーズだったという場合があります。

そのため、しっかりと待って5分足で上昇トレンドフェーズが続いていることを確認してからエントリーをかけていくのが良いでしょう。

一貫して、だいたい勝てないときは焦りすぎているということが原因なのです。

ゆっくりとフェーズチェンジが起きたことを確認してからエントリーをかけていくのが良いでしょう。

つまり、フェーズチェンジが起きたと判断できるようになるのは、実際にフェーズチェンジが起きてからしばらく経った時点になる、ということをお忘れなくしておきましょう。5分足のフェーズチェンジは、だいたい1時間程度待ってから判断できるようになります。

安心してください。少くくエントリーが遅れたことで、損切りの極小化は実現できます。

実際にエントリーをかけるときは1分足のチャートを使うので、エントリーを実際にかけるポイントについて説明していきます。



# 上昇トレンド エントリー

5分足で上昇トレンドフェーズになったことを確認できたら、最後に1分足を使って微調整を行いながらエントリーをかけていきます。もちろんこの時点でも1分足で上昇トレンドフェーズになっていることが大前提です。もし下降トレンドフェーズに入っていたら、上昇トレンドフェーズになることを待ってエントリーをかけるようにしましょう。上昇トレンドフェーズになっていたらロングでエントリーをかけます。しかし、エントリーをかける前に決めておかなければならないことがあります。それは損切りの位置です。損切りの位置を決めて、そこに損切り注文を入れておかなければなりません。これは必ず入れるようにしましょう。損切りについてはこれから説明します。



# 上昇トレンド 損切り設定

次に損切りの設定位置について解説します。損切りの設定は、一般的には直近の安値をつけたポイントに置くように教えられがちですが、それだと損切りの極小化を実現できたとは言えません。そこで、損切りは「直近の上昇の勢いが弱まってしまった」と判断できるようなポイントにおきます。慣れないうちは、直近の上昇の流れにトレンドラインを引いて、そのトレンドラインを下回ったところに設定しましょう。上昇しているものは上昇を続ける。という考えに基づいて、その勢いがなくなるポイントに損切りを入れておくようにするのがいいです。こうすることで、なんと1トレードあたり2pipsほどの損切りに抑えることができます。先ほどのエントリーポイントだと、以下のようなポイントが損切り位置になります。わかりやすいようにチャートを拡大して表示させました。



# 上昇トレンド 利益確定

では先ほどのエントリーをかけた後の状態を見ながら、利益確定について説明します。  
上昇トレンドフェーズでのトレードでは損切り幅1に対して、利益確定は5以上を狙っていきます。  
損切り幅は2pipsなので、利益確定は10pips以上になったときに初めてできます。  
それまではひたすら我慢して待ち続けるようにします。それと、上がり続けている間はこれからも上がることを想定して、どんどん利益を伸ばすようにします。利益確定の条件を満たしていて、さらに1分足でフェーズチェンジが起きたところで初めて利益確定をしていきます。  
この例だと、25pipsの利益が出たところで初めて利益確定をするので、リスク1(2pips)に対して、リワードは12(25pips)得られます。



# 上昇トレンド 損切りパターン

このトレードでの勝率は、だいたい40%程度に落ち着きます。リスクリワードが異常に良いため、これくらいの勝率でも全く問題ありません。もちろんエントリーをかけた後に損切りにかかることもあります。

ロングエントリーをかけた①のところでは損切りにかかってしまいます。しかしまたその後、再び上昇を始めたところで再度ロングエントリー②をかけていきましょう。そうすることで損切りを極小に限定しながら利益を出していくことができます。

エントリーをかけるときには、ローソク足をちゃんと見て、上昇を始めているかどうかを判断基準にしましょう。上昇の状況を見るために25SMAがあるのであって、25SMAをクロスしたとかは一切関係ありません。



# レンジフェーズ分析

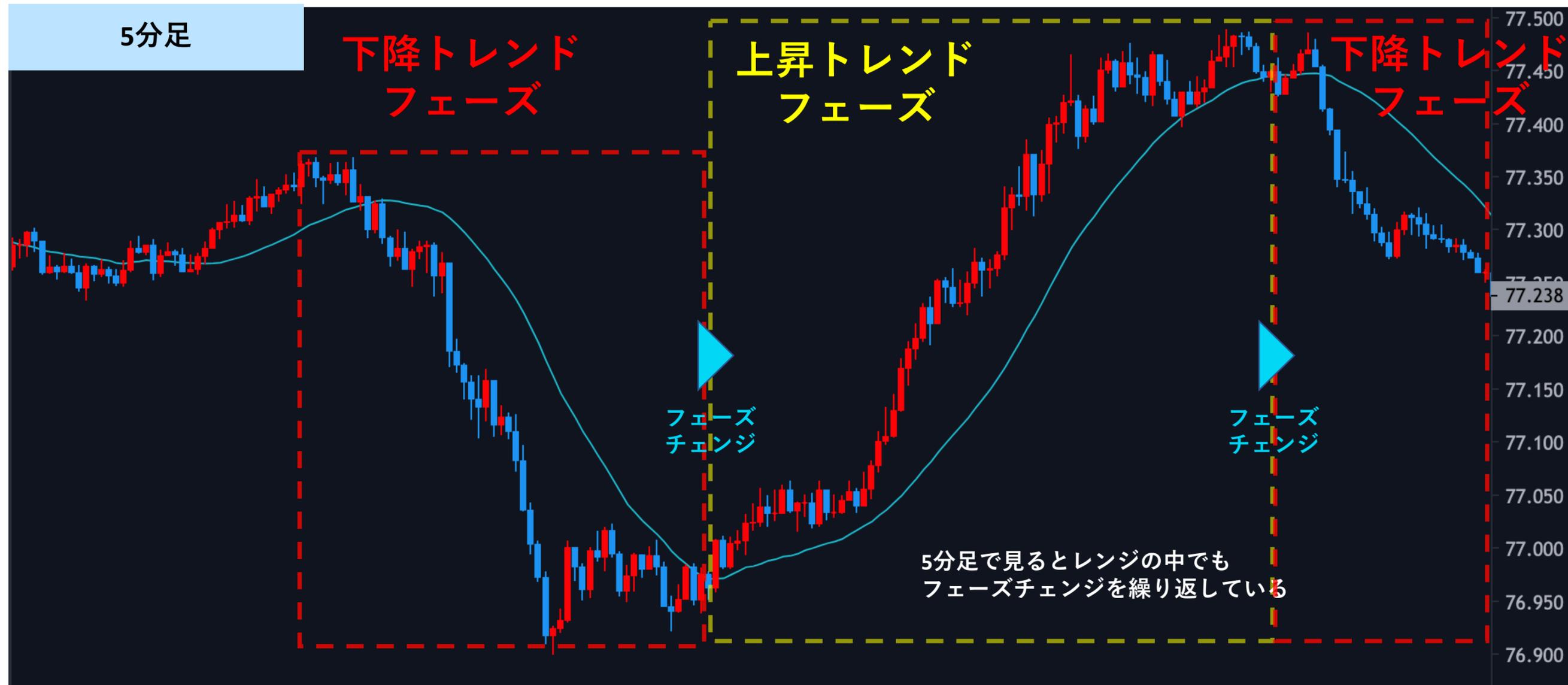
次に、レンジフェーズでのトレード方法について説明していきます。まずは上昇トレンドと同じように、フェーズ分析を1時間足で行なっていきます。

レンジフェーズでは、25SMAが水平になっているか、または細かい上下動を繰り返している状態になっています。さらにローソク足の値動きを見ながら、上下動を繰り返しているかどうかをチェックしてみましょう。レンジフェーズでは相場に規則性を求めてはいけません。上昇と下落のそれぞれが戦っている状態なので、押したり戻したりをひたすらランダムに繰り返しています。



# レンジトレードポイント決め

1時間足でフェーズを決定してレンジフェーズを特定したら、次は5分足のチャートを見てまた同じようにフェーズの分析を行います。1時間足ではレンジフェーズであっても、5分足では下降トレンドフェーズや上昇トレンドフェーズにフェーズチェンジしています。狙いたいのは、5分足で上昇トレンドフェーズにフェーズチェンジしたポイントまたはその逆で下降トレンドフェーズにチェンジしたポイントです。ここでは上昇トレンドにチェンジしたポイントだけに絞って解説をしてきます。

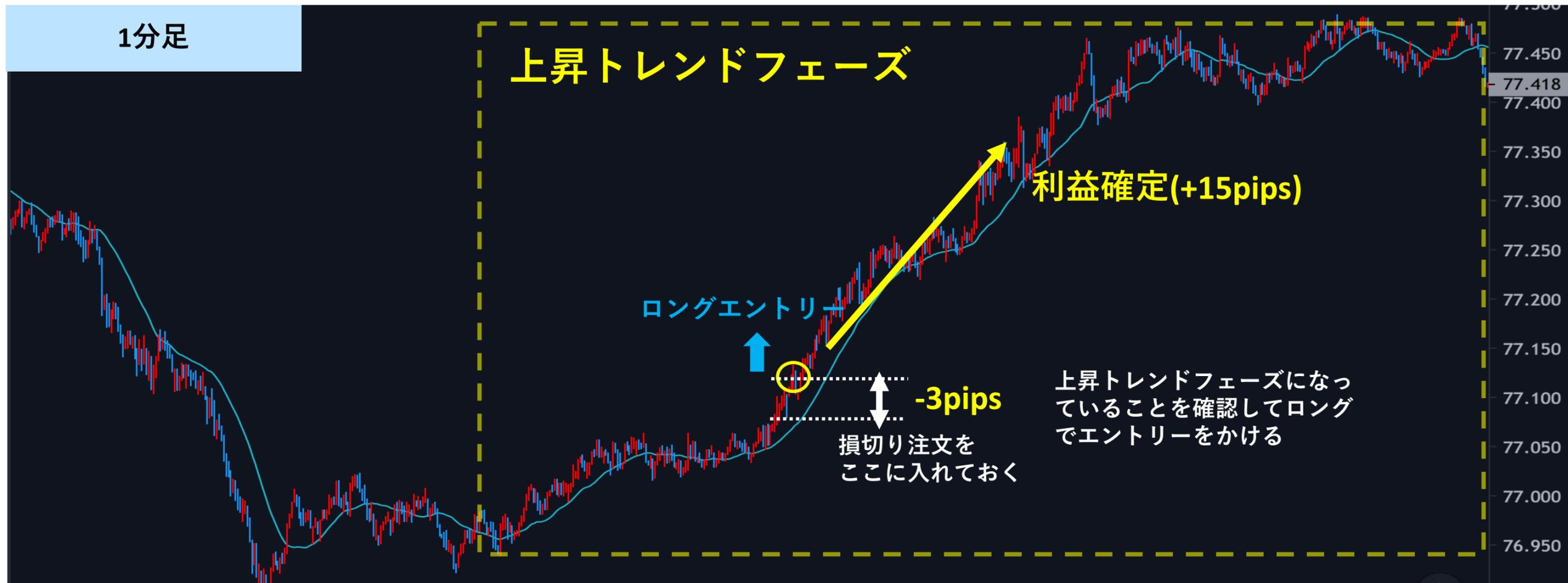


# レンジフェーズトレード エントリー・損切り・利益確定

5分足で上昇トレンドフェーズになったことを確認できたら、最後に1分足を使って微調整を行いながらエントリーをかけていきます。もちろんこの時点でも1分足で上昇トレンドフェーズになっていることが大前提です。

もし下降トレンドフェーズに入っていたら、上昇トレンドフェーズになることを待ってエントリーをかけるようにしましょう。上昇トレンドフェーズになっていたらロングでエントリーをかけます。損切りのポイントは上昇トレンドフェーズで解説したポイントと同じです。ここで注意しておきたいのは、損切り幅は必ず5pips以内に収まるようなポイントにすることです。もしできないなら、エントリー自体を見送るようにします。

レンジフェーズでは、利益を大きく狙うようなことはしてはいけません。逆に早めの利確をしないとすぐに戻されることになります。そのため、利益確定は損切り1に対して2以上の利益が出たポイントで行うようにしましょう。そして、上昇しているときに利益を確定するのがポイントです。1分足フェーズチェンジを待っていると、すぐに利益をゼロにされるので、早めの利益確定が求められます。



# 下降トレンド フェーズトレード

---

下降トレンドフェーズでの立ち振る舞いは、上昇トレンドフェーズでの立ち振る舞いと全く同じなので、割愛します。  
上昇トレンドフェーズにおける上昇の部分を、下降と置き換えて実施します。

# フェーズごとの想定リスクリワードと勝率

フェーズごとのトレード方法について、説明してきました。このページで、それぞれの説明で説明していた想定リスクリワードと勝率についてまとめておきます。リスクリワードは、最低このラインを狙わなければならない、という義務であって、本来はこれ以上のリスクリワードになることが多いです。勝率は低めですが、だからこそ大きな利益を狙っていき、コツコツドカンの真逆で利益を積み重ねていくことができます。最大損失制限とは、1回のトレードで出して良い損切り幅のことを指します。これよりも損切り幅が大きくなるようなら、エントリーは一度見送って、最大損失制限以内になるポイントを探してエントリーをかけなければいけません。

フェーズ	上昇トレンド	横ばい（レンジ）	下降トレンド
リスク：リワード	1:5	1:2	1:5
想定勝率	40%	35%	40%
最大損失制限	5pips	5pips	5pips

# 具体的なトレードルール設定

トレード手法については以上ですが、この手法で利益を最大化するためにはさらなるトレードルール設定が必要です。このトレードルール設定を怠ってしまうと、勝てるものも勝てなくなります。一般的な手法本にはここまで書いていないので、勝てないのは当然です。他人のルールは使えない、というのは、このトレードルールが書かれていないからなのです。この手法の、具体的なトレードルールを以下にリスト化しておきます。

## トレードルール

- エントリーを行う時間帯は日本時間午前8時から深夜0時まで。それ以外ではエントリーをかけない。ポジションを持っている場合は、いつでも決済を行うことは可能とする。
- 1トレードの損切り幅は、それぞれのフェーズで設定した最大損失制限を必ず守る。
- 1トレードのリスクリワードはそれぞれのフェーズで設定した想定リスクリワードを必ず守る。リワードが大きくなるのは問題なし。
- 想定リスクリワードに到達するまで利益確定は行わないこと。損切りの建値ストップも行わない。
- 想定リスクリワードを上回ったら、建値ストップを設定しても良い。
- 但し、ポジションを持ったまま寝ることになった場合は、必ず建値ストップを設定してから寝るようにする。
- 1時間以内に3回以上のエントリーは行わない。それ以上やると損失回避の心理が強くなり、無駄なトレードを繰り返してしまう。
- 1日に得た利益利益の30%以上の損失を出してしまったらその日のトレードは終了すること。  
例えば、昼間に10万円の利益確定を行なった後、夜にエントリーポイントが出現してトレードを行ったとする。  
しかし、夜に行なったトレードで、その日に得た利益の30%つまり3万円以上の損失を出してしまったら、その日はもうトレードしない。
- エントリーをかけると同時に必ず損切り注文を入れる。そしてその損切り注文を決して動かさない。
- 重要指標が発表される時間でも、トレードをしても問題ない。損切り注文が行われている限り、損失は限定できている。
- エントリーチャンスが来ないとき出会っても、他の通貨ペアでトレードをしないこと。
- トレードする時間足は変えない。必ず1時間足でフェーズ分析・5分足と1分足で微調整を行う。
- 5回以上連続で損切りにあったらその日はトレードしない。

# 最後に

---

FXトレードは90%以上の人が負けると言われています。行動経済学的にもこの事実は証明されていて、実際はごく1部のトレーダーが巨額の利益を上げて、残りの大多数のトレーダーで巨額の損失を押し付けあっているという構図になっているのがFXトレードです。

FXトレードをするのなら、巨額の利益を上げられるトレーダーにならないければ意味がありません。

利益を上げられるトレーダーになるには、相応の努力が必要になります。しかし、努力だけではどうにもならない考察力や経験がFXトレードには要求されます。それは膨大な時間と費用を必要とすることなのですが、このトレードノートを読んでいただくことで、その膨大な時間と費用をかなり抑えられるようになります。

他のトレード手法に目移りすることもあるでしょうが、実際に勝てるようになるには、同じことをひたすら繰り返した人だけなのです。

そのことを忘れないようにしていただき、ぜひこのトレード手法で利益を上げて行ってください。

後は練習あるのみです！

Ocean II と題してトレードノートを公開させていただきましたが、その先代であるOceanトレードノートでは、トレンド転換の重要な考え方について説明しています。このノートを読むと、このOcean II の実践的なトレード手法をより深く理解できるようになるので、是非読んでみてください。

▼ Oceanトレードノート概要は以下のURLからご覧になれます。

<https://fxtrader-university.com/ocean-intro/>

裁量トレードを頑張っている全ての皆さんを応援します。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

# 利用規約

本ドキュメントは、著者のトレード経験におけるノウハウをお伝えするために作られたものであり、これを読んだ方がトレードが必ず成功するようになることを保証するものではありません。  
また、このドキュメントに書かれている内容・画面コピーなどを無断で転載・二次配布することは禁じます。  
許可なく前述した行為が発覚した場合は、想定される損失も含めて請求させていただきます。



# FXトレーダー大学

<https://fxtrader-university.com/>